

[普及事項]

成果情報名：カドミウム低吸収性品種「あきたこまちR」のマニュアルおよび栽培暦の作成

研究機関名 農業試験場作物部・原種生産部・生産環境部
(秋田の米ちから推進タスクフォース)

担当者 佐山 玲・松本眞一・他 12 名

[要約]

カドミウム低吸収性品種「あきたこまちR」の品種特性と栽培のポイントを示した指導者用マニュアルおよび生産者用栽培暦を作成した。

[キーワード]

あきたこまちR・マニュアル・栽培暦・品種特性・栽培管理

[普及対象範囲]

県内全域

[ねらい]

本県では、米のカドミウム基準値の見直しや、ヒ素基準値の新規設定等も見据えた対応として、カドミウム低吸収性品種「あきたこまちR」を県奨励品種に採用し、令和7年以降、「あきたこまちR」の一般栽培が開始される。そこで、良質な「あきたこまちR」の安定した栽培管理体制を確立するため、指導者用マニュアルおよび生産者用栽培暦を作成する。

[成果の内容及び特徴]

- 1 マニュアルは全 28 ページの指導者用で、カドミウム低吸収性品種「あきたこまちR」一般作付け導入の背景、本品種の系譜、品種の特徴、生育ステージと生育経過、栽培管理、現地試験における生育、直播栽培における特性概要、で構成される（図1）。
- 2 本品種の主要特性は「あきたこまち」とほぼ同等であり、カドミウム低吸収性により玄米のカドミウム濃度が「あきたこまち」より著しく低くなる。一方で、マンガン吸収能力の低下がみられ、ごま葉枯病が発生する場合がある。
- 3 土づくりは「あきたこまち」と同様に重視し、本田管理は「あきたこまち」と同様に行う。
- 4 病害虫防除は、「あきたこまち」と同様に行うが、砂質土壌で「秋落ち」が認められる水田では、マンガン不足によりごま葉枯病に罹病しやすくなるため、栽培するほ場条件に応じて、対策を行う（図2）。
- 5 栽培暦は、A3版表裏の生産者用で、利用しやすいように栽培の要点を時系列でまとめるとともに、品種特性を図表により説明している（図3）。

[成果の活用上の留意点]

- 1 マニュアルは県の普及指導員やJAの営農指導員等、栽培暦は生産者の利用を想定している。
- 2 最新版の指導者用マニュアルは第2版（令和7年1月現在）、同じく生産者用栽培暦は令和7年度版（令和7年1月現在）である。

[具体的なデータ等]



目次

- 1 背景・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 系譜・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 3 品種の特徴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
 - (1) 収量構成要素・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
 - (2) 食味・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
 - (3) 玄米のカドミウム濃度と茎葉のマンガム濃度・・・・・・・・・・・・・8
- 4 生育ステージと生育経過・・・・・・・・・・・・・9
- 5 栽培管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
 - (1) 土づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
 - (2) 本田管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
 - (3) 病害虫防除・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
- 6 現地試験における生育・・・・・・・・・・・・・27
- 7 直播栽培における特性概要・・・・・・・・・・・・・28

図1 「あきたこまちR」マニュアル

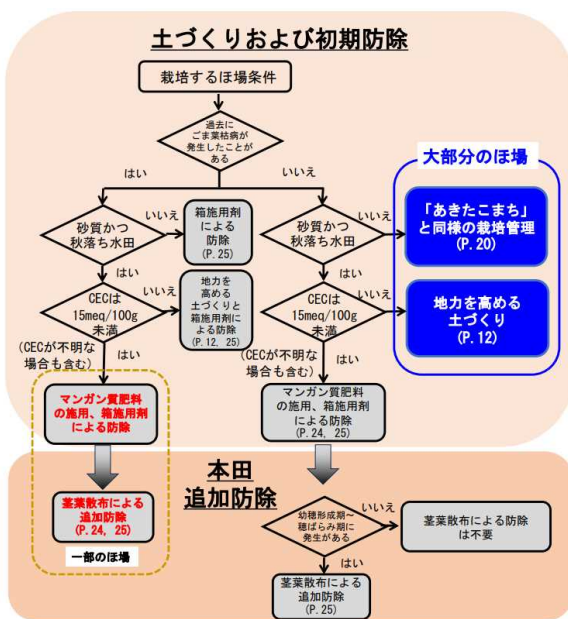


図2 ほ場条件に応じた栽培管理のフローチャート (マニュアル P. 11)

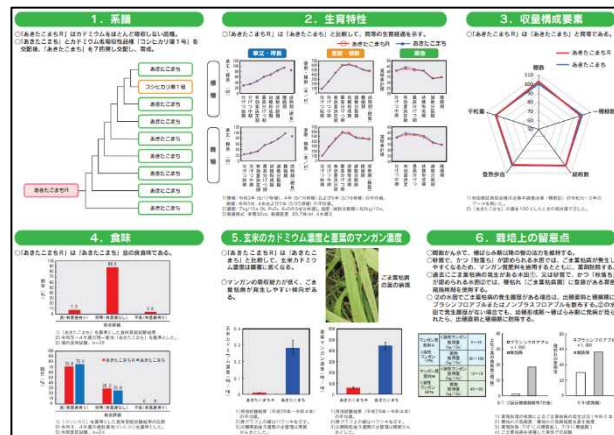
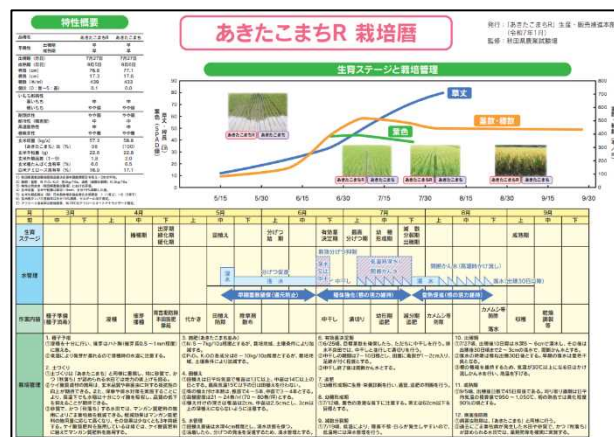


図3 栽培暦 (上図：表、下図：裏)

[その他]

研究課題名：主要農作物奨励品種決定調査、主要農作物の生育時期別栽培技術情報の提供、土壌環境総合対策事業、実需に応じた秋田米生産を支える病害虫防除技術の確立

研究期間：平成29年度～令和6年度

予算区分：県単、配当

掲載誌等：なし